

# 臨床薬理学

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに学ぶ。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を学ぶ。

■**到達目標**：①臨床で使用されている基本薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係を正しく理解できる。  
②臨床で使用されている基本薬物について、薬物が人体に作用する仕組みを正しく理解できる。  
③薬害の実態について学び、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。

■**担当教員**：

◎唯野 貢司・後藤 仁和

■**授業計画・内容**：

- 第1回 医薬品総論（1）
- 第2回 医薬品総論（2）
- 第3回 主な生活習慣病に使用する薬（1）
- 第4回 主な生活習慣病に使用する薬（2）
- 第5回 主な生活習慣病に使用する薬（3）
- 第6回 救命救急時に使用する薬（1）
- 第7回 救命救急時に使用する薬（2）
- 第8回 感染症に使用する薬（1）
- 第9回 感染症に使用する薬（2）
- 第10回 がん・痛みに使用する薬（1）
- 第11回 がん・痛みに使用する薬（2）
- 第12回 脳・中枢神経系疾患で使用する薬
- 第13回 アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬
- 第14回 消化器系疾患に使用する薬
- 第15回 その他の症状に使用する薬

■**教科書**：『疾病の成り立ち 臨床薬理学』（メディカ出版）

※ほぼ毎回資料を配布します。

■**参考文献**：『系統看護学講座 専門基礎分野5疾病のなりたちと回復の促進（2）薬理学』（医学書院）

■**成績評価基準と方法**：出席状況・授業態度と講義内容に基づく基礎知識の理解度を問う筆記試験により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		80
授業態度	○	○	○	真面目で積極的な姿勢。	20
出席				2/3以上の出席。	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次で学んだ「薬理学」を基に、薬物が臨床でどのように使用されているかを学びます。重複する部分もあるため、1年次の講義内容と併せて学習すること。